

マツダ

手元資金が大幅改善

単価上昇しネットキャッシュ1千億円超

マツダ（丸本明社長）は1台当たりの利益率向上策と経費削減が奏功し、手元資金の状況が大幅に改善している。2023年3月期の「ネットキャッシュ」（現預金などから有利子負債を引いた実質的な手元資金）は前年に比べ420億円多い1016億円で、2年連続プラスとなった。

第1四半期の生産停滞で販売台数が伸び悩む中でも、高価格帯のラージ商品群の投入やハイグレード選択に加え、商品改良に伴う単価上昇とで収益を押し上げた。1台当たりの売上高は19年比33%増の361万円へと上昇。

一方、「営業キャッシュフロー（CF）」は前年に比べ518億円少ない1374億円だった。即現金化できないことからマイナス要因となる棚卸資産が前年比2710億円増えたことが大きい。輸送船不足などで一時的に完成車在庫が増え、米工場の稼働に伴い部品在庫も増加。これらに円安が影響し、棚卸資産の増加要因になった。設備投資が積極的であればマイナスになる「投資CF」は前年のマイナス1362億円に対してマイナス994億円。フリーCF（営業・投資CFの合計）は前年に比べ149億円少ない380億円。自己資本は前年比1385億円増の

1兆4396億円（自己資本比率44%）になり、財務基盤の強化が進む。

前期の連結売上高は前年比23%増の3兆8268億円、純利益は75%増の1428億円を計上。今期売上高は2年連続で過去最高となる4兆5000億円を計画する。前期のグローバル販売台数は111万台と前年から11%減ったが、今期は米国のCX190や中国のCX150など新型車効果を見込み、130万台を目指す。純利益は円高への振り戻しを念頭に、1300億円と減益を予想。原材料費の高騰や世界的な経済回復に伴う輸送船の不足といった課題が立ちはだかるが、6月下旬に新社長に就く毛籠勝弘氏へ2030年に向けた経営方針の実現を託す。

広島・西条 亀齢酒造株式会社



品質を誇る酒都・西条の酒

物流のクボックス UBOX T
岡山で災害時に軽油供給 (西区)は



5月1日、岡山市と「災害時における軽油の供給に関する協定」を結んだ。救援物資を運ぶ緊急車両の燃料不足に応じる。岡山市の物流拠点に配備した防油堤一体型タンクの燃料を使う。鋼製の同タンクは非金属シートで被覆する二重構造で、その外側が厚さ15センチ以上の鉄筋コンクリートで覆われている。耐火性や衝撃耐性が高く、災害時に貯蔵物が流出しづらい。タンクそのものをトレーラーで輸送できる。

全国健康保険協会(協会けんぽ)指定施設
各健康保険組合・各共済組合指定施設

医療法人(社団)ヤマナセ

《メディオンズ》

広島生活習慣病
がん健診センター

お問い合わせ tel.082-224-6661
銀山町電停前 広島マツダビル4F・5F

たなか たかゆき
表紙の人 田中 孝幸 氏

田中食品副社長。1985年4月6日生まれ、西区出身。崇徳高校から明治学院大経済学部を卒業し、凸版印刷を経て2011年田中食品入社。商品開発、営業など幅広く経験し、常務を経て22年から現職。広島商工会議所青年部（広島YEG）には13年入り、周年記念事業企画委員会副委員長、ビジョン委員会委員長、副会長、監事などを務めた。

広島YEGの23年度会長に就任した。スローガンに「YEG LINK ~ Connect the dots.全ての繋がりは未来への礎となる~」掲げる。「成功も失敗も一つの経験であり、目の前の経験（点）を増やすためにも積極的な事業への参加と多くの交流を期待する。それらが線となり面となることで、物事をより俯瞰的に広い視野で捉えられるようになり、未来へも繋がっていく」。8グループ10委員会、五つの特別委員会を設け、交流と研鑽を主軸に企画・運営を行う。「G7サミットで広島に注目が集まった。この機会に広島歴史を深く知り、平和について考える場を持ち、スポーツやまちづくりについても議論を交わしていきたい。伝統と格式のある会を守り、新しい時代に向かって会員とともに全力で挑戦する」